

与する。これらは着脱可能であり、イベントや季節に合わせた柔軟な更新が可能である。

4. 機能強化：創造性、防災、スマートエネルギー

本計画の核となるのは、恒久的な建築物に依存しない「フレキシブルな文化・防災ストリート」への進化である。

A. 創造性と賑わいの創出（移動式文化・交流拠点）

神戸市等が保有する移動販売車やコンテナを「動くキャンバス」として活用し、動的なミュージアム・ゲートウェイを形成する。

これらの活動は、通行を妨げないよう「兵庫県立美術館前の広場」「駅前広場」「沿道に点在する公園」といったオープンスペースを拠点として展開し、以下のような「生命力の祝祭」とも呼べる光景の創出を目指す。

多様な活動の集積：キッチンカーだけでなく、移動図書館、ミニサーカス、移動動物園などが参加し、混沌としつつも愛に満ちた空間をつくる。



社会課題へのアプローチ：楽しさや賑わいの中に、保護犬・保護猫の譲渡会や震災募金、学生による社会課題発表の場（写真展等）を組み込む。

五感への刺激：スパイシーな香りやパンケーキの匂い、動物の鳴き声、音楽、そしてアートが混然一体となり、誰かの痛みに寄り添いながらより良い未来を願う「生きた心」が通い合う場とする。

B. 防災・レジリエンス機能

これらの賑わい施設は、全て「可動可能な要素（モジュール）」で構成する。

迅速な空間確保：平常時は自由なレイアウトで賑わいを作るが、有事の際は迅速に撤収し、避難経路や緊急車両通行路を確保する。

災害支援転用：移動販売車は、災害時に緊急物資供給、炊き出し拠点、情報提供・充電ステーションへと役割を変えることで、防災都市・神戸のレジリエンスに貢献する。

C. スマートエネルギーとモニタリング（技術的アプローチ）

ミュージアムロードの持続可能性を高めるため、歩行者の踏圧を電力へと変換する圧力発電装置（例：Pavegen）を導入する。

エネルギーの可視化：歩行により生じる運動エネルギーを電力として回収し、夜間の小規模な灯光サインやアートイルミネーションの補助電源として活用する。「人の動きがまちのエネルギーになる」仕組みを可視化し、SDGs（目標 7・11）への理解を深める環境教育の役割も果たす。

データ活用(EBP)：本装置は「都市の振る舞いを読み取るセンサー」としても機能する。同時に

取得される人流データを解析し、「貼付アートの回遊効果」「移動販売車の最適配置」「イベント施策の効果測定」等の定量的な評価（エビデンス・ベースト・プランニング）に活用する。これらのデータは大学・研究機関と連携して解析し、神戸市の政策へフィードバックを行う。



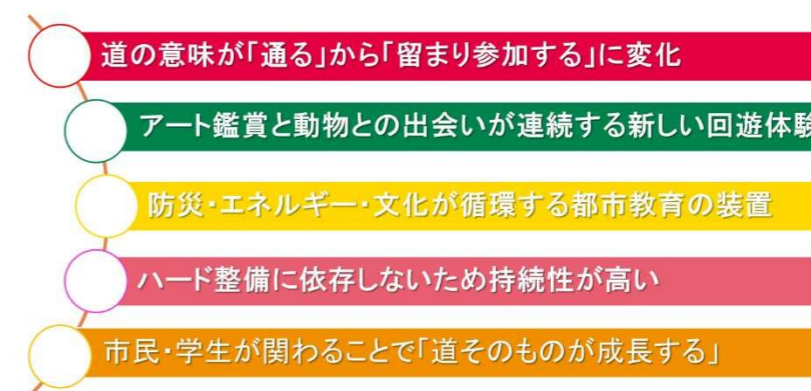
5. 持続可能な運営とフェーズ計画

行政（神戸市）、大学（徳島大学・関西学院大学等）、地域住民・企業が連携する持続可能な運営体制を構築する。2026年度から5年間の試行期間を経て、2031年度からは神戸市や近隣大学や地域との連携を図り、10年目となる2036年度には、住民主体による持続可能な運営モデルへと移行する。

フェーズ	実施内容	主体
Phase 1 (試行期) 2026年～	・主要交差点等への「美かえるパレット」試験設置 ・移動販売車を用いたミニギャラリーの試験運用 ・可搬型発電ユニットのデモ導入とアンケート調査	大学 神戸市
Phase 2 (連携期) 2031年～	・貼付アートの範囲拡大 ・「Re:Link Festival (仮)」の開催（移動動物園やサーカス等の誘致） ・圧力発電データの収集開始と夜間ライトアップの実施	市・大学 地域
Phase 3 (発展期) 2036年～	・移動販売車の災害時転用モデルの確立（充電ステーション等） ・圧力発電データに基づく運用最適化 ・住民主体による持続可能な運営モデルへの移行	大学 企業連携

6. 期待効果

本提案は、神戸ミュージアムロードを「変身する道」として再定義するものである。「美かえる」の色彩による軽やかな景観形成、移動型拠点による動的な賑わい、そして圧力発電によるスマートなエネルギー循環。これらを「Re:Link」させることで、文化と防災、そしてアートと生命（いのち）がつながる、未来志向の参加型ミュージアムロードを実現する。



空間の変身 (Space Metamorphosis)

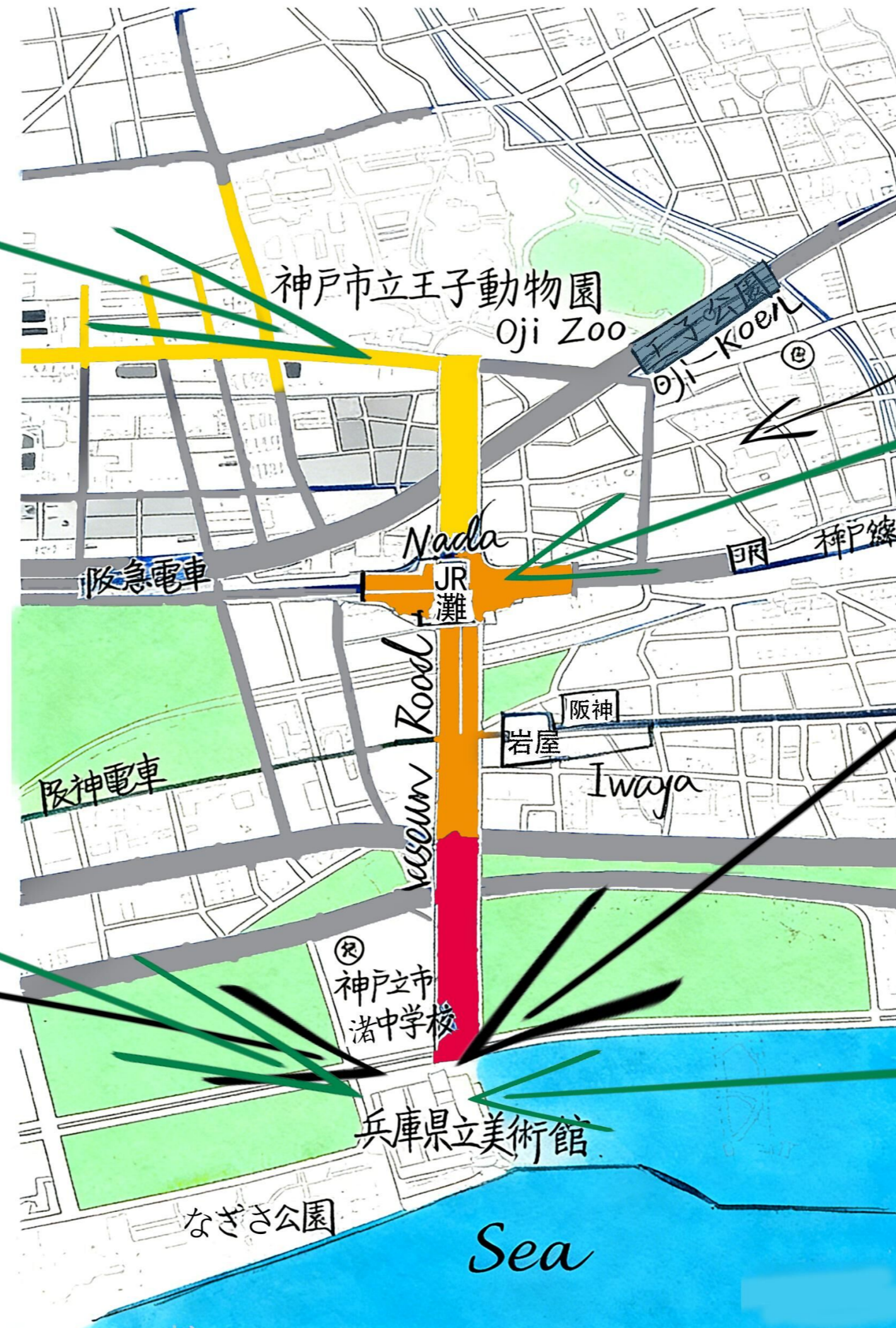


ミュージアムロード全体を一つのキャンバスとし、南の幾何学アートから北の自然・生命へ、色とデザインがグラデーションしながら空間の変身を演出する計画。視覚演出によってアートと動物園をRe:Link (ストーリー性) でつなぐ。

機能の変身 (Functional Metabolism)



「生命」を人々の活動エネルギーと捉え、歩行の踏圧を圧力発電で電力へ変身させる仕組み。人の動きが夜のライトアップ (アート) を支えるエネルギー循環を生み、来街者は歩くことで都市とつながる体験を得る。



神戸ミュージアムロード “Re:Link” 計画
—アートと生命をつなぐ、参加型リビング・ストリート—

状況の変身 (Resilience)



平常時は祝祭の広場としてにぎわい、災害時には給電・物資拠点へ即座に変身する可変性を備えた空間。変化する状況の中で市民の生命 (Life) を守る、強靱なリビング・ストリート。

